

3カ月連続下落

アジア発米国向け

4.6%減の124万TEU

ゼポ社統計8月 伸び率鈍化顕著

米国のゼポ・コーポレーション (Zepol Corporation、本社=ミネアポリス) の統計によると、8月のアジア主要10カ国発米国向けの東航荷動きは、前年同月比4・6%減の124万3972TEUとなり、3カ月連続の下落となった。前月比では9・3%の増加。1~8月累計では前年同期比2・3%増となっており、年後半に差し掛かって伸び率の鈍化が目立っている。昨年7~9月は特に荷動きが好調だったため、その反動による減少もあると思われるが、景気の先行き懸念から9月以降の荷動き動向にも不透明感が強まっている。

荷動きの中心である中国出しは、6、7月に続き3カ月連続の前年同月比マイナスだった。下落幅は6月が9・4%減だったのに対し、

7月は3・4%減、8月は4・1%減。前月比ベアは香港、台湾はいずれも前月

プラスに転じている。韓国は3カ月ぶりのプラスで、7月は香港を下回ったが再び国別荷動きで2位。

比でプラス。韓国は3カ月ぶりのプラスで、7月は香港を下回ったが再び国別荷動きで2位。

日本は前月比10・3%増と伸びが目立った。5月を底に順調に回復してきており、8月実績は震災があった3月の輸出実績とほぼ並んでいる。前年同月比では1・2%減と小幅の下落にとどまった。

日本発米国向けの直航貨物を港別に見ると、東京港発は約1万8000TEUで4月以降増加傾向が続く。神戸・横浜は若干の増加。名古屋は1万3900TEUで、震災前の水準には届いていないものの5月を底に回復しつつある。また博多発は3月は307TEUだったが、8月では約

米国向け8月荷動き

(単位:TEU、母船積み地ベース・実入り)

| 積み地 | 貨物量 | 前月比 | 前年同月比 |
|--------|-----------|--------|--------|
| 中国 | 754,141 | 8.7% | ▲4.1% |
| 韓国 | 115,869 | 10.5% | ▲6.8% |
| 香港 | 110,833 | 4.6% | ▲16.9% |
| 台湾 | 92,114 | 23.4% | 6.1% |
| 日本 | 56,814 | 10.3% | ▲1.2% |
| シンガポール | 53,675 | 13.8% | ▲6.8% |
| ベトナム | 18,395 | ▲5.2% | ▲1.4% |
| タイ | 17,390 | 24.3% | 12.1% |
| マレーシア | 12,677 | ▲13.2% | 19.0% |
| インド | 12,064 | 3.0% | ▲11.1% |
| 合計 | 1,243,972 | 9.3% | ▲4.6% |

Zepol Corporation Trade IQより



日本発貨物は3月並みに (写真は東京港)

2000TEUと伸びが目立っている。一方、釜山港経由で北米向けに輸送された日本発貨物は、8月は前月比2・8%減の4568TEU。5月の5693TEUを頂点に横ばいしないし漸減傾向と

なっている。一時伸びが目立った新潟発の釜山トランシップ貨物は、5・6月は月間500TEU前後まで上昇したものの、8月は約100TEUと4月ごろの水準に戻っている。3月は34TEUだった。

SC交渉で利用の運賃指標

FMCがルール策定へ